

2011 年度「日本海洋学会青い海助成事業」 申請書

○ 申請する活動の名称：

「下北半島周辺の海岸における市民と協働した海洋環境・生物モニタリング体制構築にむけた公開講座・自然観察会」

○ 活動期間

2011 年 4 月 1 日～2012 年 2 月末日

○ 申請代表者情報

氏名： 田中 義幸

所属・身分： 独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所・研究員

連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）：

住所：青森県むつ市大字関根字北関根 690

電話：0175-45-1041

E-mail：y-tanaka@jamstec.go.jp

○ 団体情報（団体での応募の場合にご記入下さい。）

該当しない。

なお、活動は海洋研究開発機構むつ研究所を中心に、むつ市下北自然の家の協力を受けて実施する。

○ 当該申請活動の具体的な内容

【目的】

地球規模で進行する温暖化や海洋酸性化は、沿岸や縁辺海の環境を変え、生物多様性の喪失を招くことが懸念されている。潮間帯や潮下帯上部で起きている分布生物の変化とそれに影響を与える海洋環境との関係を詳細に理解するためには、専門家と市民をはじめとする様々な主体が協働し、継続的に調査・モニタリング活動を実施することが望ましい。本申請活動においては海洋環境と生物相に関する公開講座・自然観察会を開催することにより、さまざまな活動主体に働きかけ、下北半島周辺域における複数の観測地点からなる調査・モニタリング体制を構築することを目的とする。

【活動の概要】

青森県下北半島においては、津軽暖流の消長の影響を受けて魚類・海藻類など漁業対象種の分布に変化が出ていることが指摘されている。青森県は高緯度域に位置する上に暖流の影響も強く受けていることから水温をはじめとする環境要因の変化幅が広い。そのため海洋生物の分布種数が多く、さまざまな生物の分布限界に当たる事も多い。昨年夏には水温上昇に伴いホタテが斃死し陸奥湾の水産業従事者が大きな打撃を受けたことは記憶に新しい。今後、津軽暖流水の勢力が変化した場合には、下北半島の生物の分布に顕著な影響を与える可能性が高いと考えることができる。この海域では、これまで漁業対象種の分布変化が注目を集めてきたが、生物多様性を評価・保全することを考慮すると、今後は漁業対象種ではない生物の分布にも着目する必要がある。

下北半島周辺域における複数の観測地点からなる調査・モニタリング体制を構築するために、2011年度には、大型藻類と貝類を主な対象として海洋環境と生物相に関する公開講座・自然観察会を開催し、さまざまな活動主体と協働・連携することを目標とする。公開講座・自然観察会を実施する「むつ市下北自然の家」は下北半島津軽海峡側に位置し、本申請活動の観察会開催地であるちどり浜に隣接しており、自然に親しむことに主眼をおいた活動が行われている。また、下北半島の陸奥湾側に位置する「むつ市海と森ふれあい体験館」においても、潜水・スノーケリング指導を含めた自然観察会が行われている。これらの活動の主催者や参加者に対して、より厳密に生物種を同定・データベース化し、より定量的に生物モニタリングを実施する方法を伝えるとともに、水温・塩分などをはじめとする海洋環境を同時に測定することにより、継続的に実施できるモニタリング体制を構築することを目標とする。自然観察会に伴う公開講座では、申請代表者だけでなく漁業従事者や青森県産業技術センター研究員にも、下北半島周辺域の生物種の変化に対する話題の提供をいただく。また昨年開催された第1回ちどり浜自然観察会で得られた成果を報告する。理科離れの傾向を反映している為か、下北半島地域では、近年、高校の生物部がなくなってしまったとの事である。本申請活動では、高校教員、教員OBとも連携を取りながら、公開講座・自然観察会に高校生をはじめとする若年層の参加も積極的に促す。これによって海洋環境と生物への関心を高め、次世代の海洋学に関わる人材の育成に役立てるこ

とを目標とする。

海洋環境と生物に関する公開講座・自然観察会

実施場所 むつ市下北自然の家

調査場所 ちぢり浜ならびにその周辺海域

本活動は海洋研究開発機構むつ研究所を中心にむつ市下北自然の家、むつ市海と森ふれあい体験館、青森県産業技術センター、むつ市教育委員会等と連携して行う。

【参加予定対象者及び人数】

対象者：むつ市及び近隣市町村の小学校高学年、中・高等学校生徒及び市民
開催者側の参加者：海洋研究開発機構むつ研究所所員、むつ市下北自然の家職員など

参加人数：公開講座・自然観察会参加者 40 名程度

○ 当該活動に関連するこれまでの実績があれば記入して下さい（書式は定めません）

独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所では、近隣の海域で行った水温測定の結果を水産業関係者を含む市民に報告するとともに、海洋環境・生態系・水産資源を専門とする講師を招聘してシンポジウムを定期的で開催している。また、その水温情報は、青森県産業技術センターが青森県の周辺海域 15 ヶ所の海洋環境や漁業資源を取りまとめて報告している「ウオダス」にも提供されている。昨年 9 月には、第 1 回ちぢり浜自然観察会を開催し、約 20 名の参加者に大型藻類や貝類、甲殻類の分類・同定を体験していただいた。また、申請代表者田中義幸は、環境省の重要生態系モニタリング事業モニタリングサイト 1000 のアマモ場分科会に委員として参加しており、昨年 8 月には、むつ市海と森ふれあい体験館の協力をうけてフィリピンからの研修生をむつ市に招聘し海洋調査法の実習を開催した実績がある。

以下に、本申請活動に関連する実績の開催時期、場所を列举する。

平成 23 年 2 月	第 4 回環境モニター報告会	むつ来さまい館
平成 22 年 9 月	第 1 回ちぢり浜自然観察会	むつ市下北自然の家

平成 22 年 8 月 海洋調査法実習（JICA-JST 研修）

むつ市海と森ふれあい体験館・海洋研究開発機構むつ研究所

平成 22 年 3 月 第 3 回環境モニター報告会 むつ来さまい館

平成 21 年 2 月 第 2 回環境モニター報告会 むつ市文化会館

平成 20 年 2 月 第 1 回環境モニター報告会 むつ来さまい館

○ 経費の内訳（会議費、印刷代、消耗品など）：

実習用消耗品 5 万円

招聘講師移動費 5 万円

教材・報告書印刷費 5 万円

以上